

講義名	物流政策論			授業形態	
担当教員	森 隆行	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要
 物流は経済と社会生活にとって欠かすことのできない社会インフラである。経済のグローバル化に伴い、企業や物流を取り巻く環境は大きく変わりつつある。また、先進企業は物流を積極的にその戦略に取り込んでいる。このように物流は企業戦略として、重要性がますます大きくなっている。本講義では、前半では、日本及び諸外国の物流政策を学ぶ。後半では、流通業を中心とした企業戦略との関係で物流と物流政策を学ぶ。

到達目標
 日本の物流政策とその動向について理解する。
 流通業における企業戦略としての物流の意味と役割を理解する。具体的に、流通業において物流がどのように生かされているかを事例の中で理解する。

提出課題
 講義の中で提示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 講義の中でフィードバックする

評価の基準
 講義2-3回に1度の割合でレポート・小テストを実施する。講義出席とレポート・小テストの合計点で成績を評価する。
 期末試験は行わないので、レポート・小テストを必ず提出のこと。
 小テストは講義の中で案内するので講義内容に注意すること。
 毎回出席確認。欠席3分の1以上は、単位を認めない。

履修にあたっての注意・助言他
 物流に関わる産業とその動向から日本と世界の経済動向を知ってもらいたい。日頃からニュースなどに注意を払うよう心がける。また、国際物流論、物流産業論など他の物流関連の講義も受講してほしい。

教科書
 ・特に定めない。

参考図書					

その他
 講義資料として配布する。

- 授業計画**
- 1 物流政策論で学ぶこと
 - 2 物流の基礎
 - 3 日本の物流政策とその動向
 - 4 物流とその他の関連する各種法律
 - 5 産業別にみた物流政策
 - 6 環境と物流政策
 - 7 国際物流への取り組み
 - 8 海外主要地域・国の物流政策
 - 9 企業と物流
 - 10 物流とマーケティング
 - 11 流通業における物流政策
 - 12 流通と物流(事例研究)
 - 13 流通と物流(事例研究)
 - 14 流通と物流(事例研究)
 - 15 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 その日の予習に1.5時間、講義の復習として講義内容をまとめるのに2.5時間、合計予習復習で4時間お学習が必要です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 選択科目であり、卒業に必須の科目ではありませんが、履修することが望ましい科目です。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用
 実務経験あり。
 実際にビジネスの場で経験したことを具体例として取り上げることで、学生への興味を引くと同時に理解を助ける。

備考
 新型コロナウイルス感染症の感染者、または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生は、オンライン（youtube）で講義の動画を配信するので、各自学習してもらいます。また、都度学習確認の意味で講義内容について報告していただきます。
 また、新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスの修正がある場合があります。